

行ってきた農業用の水路や道路の維持管理などに加え自然環境や景観を守る活動をします。活動組織には、活動区域の農地面積に応じ国・県・町から交付金が支給されます。

小堤・篠本（二区三区）
新井・二又・入地区の4地域で合計442・1ヘクタールの面積の保全に取り組んでいます。

農地農村を守る活動の内容

農地保全のため農業用施設の点検・草刈り・機能診断・維持補修・異常気象後の見回りや応急措置などの活動をしています。

また、景観形成のため遊休農地や水路などの施設へ季節ごとの植栽をしたり、生態系保全のため地区の子ども会が中心となり農業用水路などの生き物調査などを行っています。

◆問い合わせ

産業振興課

☎ 04 1215

保全活動を通じて

「愛 love 環境」を地区保全会の合言葉に活動をしています。農地は個人財産ですが、農村環境は地区の財産だと思いますので、子どもからお年寄りまで保全活動に参加して意識が高まればよいと思います。このまま活動が根付き今参加している小学生が中学・高校生になったときに年下の子どもに活動を教えられるようになることを望んでいます。草刈・生き物調査・ジャンボタニシの駆除・パイプラインの点検・遊休地へのコスモスの種まきなどを保全会で行いました。活動する中でいろいろなアイデアがでていきますので、それを活かして活動の幅が広がればと思います。

入地区環境保全会 早川 勇さん（農業）



生き物調査



二又地区環境保全組合 鈴木正雄さん（自営業）

花植えや生き物調査などに参加しています。子どもからお年寄りまで幅広い年代が一緒に参加できる行事は少なくなっているので保全組合事業は地区のふれあいに有意義だと思います。調査をしてみると意外に多くの生き物が身近にいることがわかりました。参加した小学生の中には、生きていた魚をつかむことを怖がる子がいたので驚きました。思えば、子どもたちが生き物に実際に触れながら学ぶという機会もあまりないので、子どもたちにはよい体験だと思います。



遊休地を活かしたコスモスの植栽



保全会では様々な活動していますが、地域全体が環境保全という一つのテーマで活動をするというのはかけがえのないことだと思います。現在は、農村ならではの古き良きルール「お互いに助け合う」精神が、時代の流れとともに薄れている気がしています。積極的に活動を行うことで、農村地区のコミュニケーションの場を確立できればと考えています。農道に花の植栽をしたことで、農地に関係のない人も散歩で花の様子を見に来る人ができたことをうれしく思います。

篠本新井環境保全会 大木一男さん（地区保全会代表）



道端に植えられたヒマワリ



小堤資源保存会 永藤千恵子さん（農業・主婦）

私の地域では農地を持っている家庭が多く地区内のまとまりが良いので、活動に多くの家庭が参加しました。植栽に参加しヒマワリを約1,000株育て植えました。同じく植えた苗でも花の大きさや育ち方が違うので、みんなで観察するのも面白いと思いました。

今は地区内のまとまりが伝統的に保たれていますが、地区の子どもが少なく高齢化も進んでいるので保存会を通じて地区のまとまりが保っていければと思います。



生き物調査